

# コンクリート一体形成のモノリシック工法。

コンクリートを生かして仕上げる  
はがれないコンクリート一体工法。

モノリシック工法とは、打設したコンクリートが中締め状態の時に、材料を散布しコンクリートに擦り込んで仕上げる工法です。これにより、材料とコンクリートが一体化し、強靱な床を造ります。

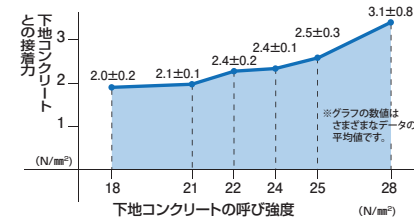
施工工程に特に難しい作業がなく、コンクリートの打設後の養生期間もありません。低コストで、浮き、はがれない衝撃に強い床をスピーディーに仕上げられます。



モノリシック工法ならではの  
すぐれた特性にご注目ください。

最大の特長は床材の浮きやはがれないこと。使用条件の厳しい場所で、長期間にわたり活躍します。また、適切なメンテナンスにより、ライフサイクルコストを大幅に軽減できます。

### ■接着力の試験



耐摩耗性にすぐれたすり減りに強い床材です。コンクリート表面に比べ4~6倍以上の強度を誇り、床面を長期間保つとともに、有害な粉塵の発生を防止することができます。



コンクリートと同じセメント製品なので燃えません。防火安全対策の一環として有効です。また、コンクリートと同程度の耐火性も備えています。



表面が非常に硬く緻密に仕上がるため、工具の落下などによる衝撃に耐えることができます。ハードな使用条件でも安心してご採用いただけます。

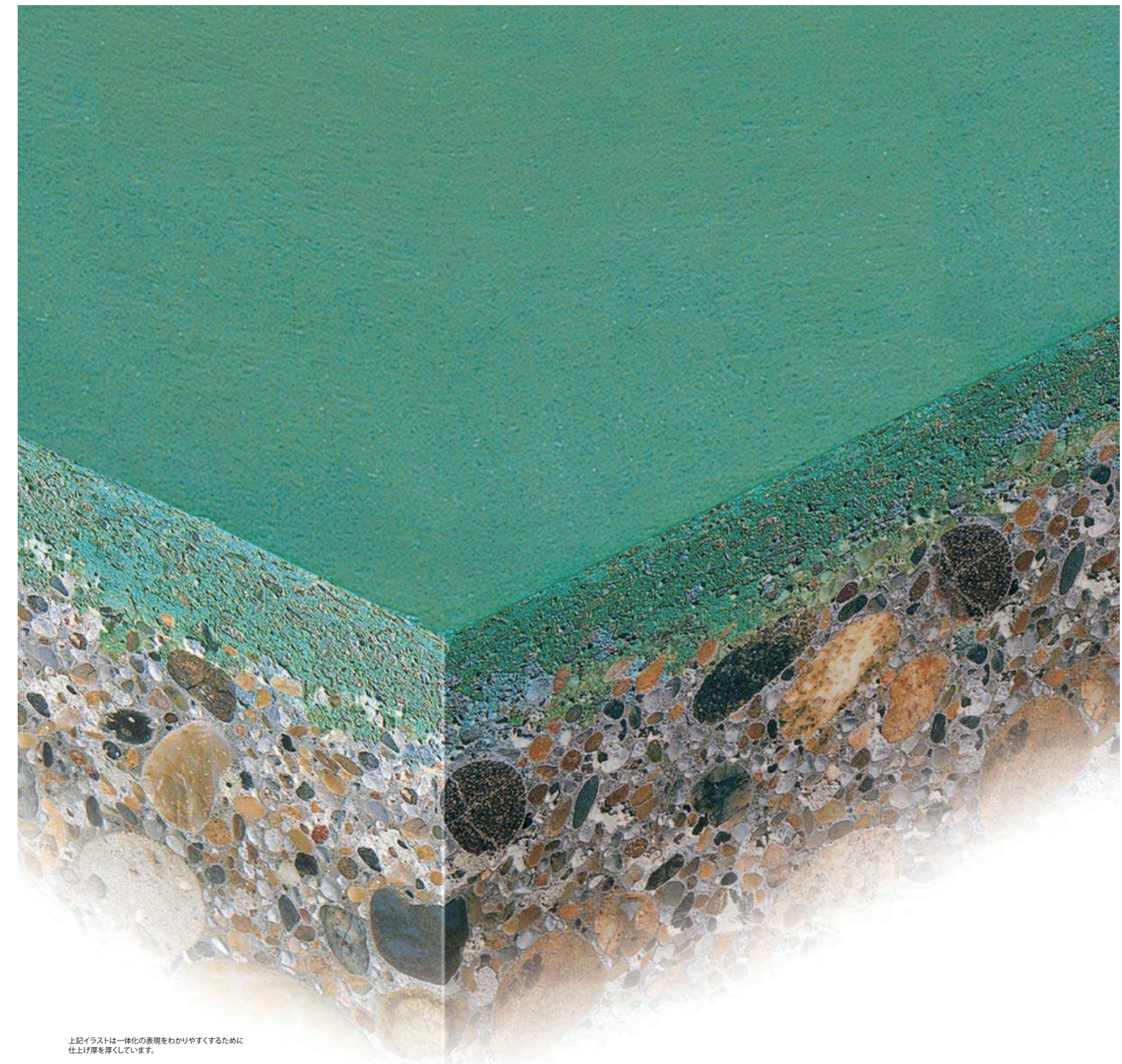
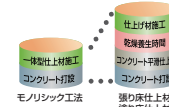


表面の緻密な仕上がりにより、油や水の染み込みをコンクリートの半分以下に抑えることができます。

⚠️ 油の染み痕は残りますのでご注意ください。



コンクリート打設時に同時施工を行なうため下地造りの手間がからず経済的です。



上記イラストは一体化の表現をわかりやすくするために仕上げ厚を厚くしています。

## モノリシック工法の施工工程

施工工程およびコンクリート配合などの詳細につきましては、各商品の標準施工仕様書を用意していますのでご参照ください。



1  
コンクリート打設

コンクリートを打設し、水平にならします。

コンクリートの打設、粗均し、レベル出しは元請で行ないます。本カタログ7~12ページに記載商品の工事範囲は②~⑤になります。



2  
締めり待ち

コンクリート打設後、作業者が「網下駄」(アルミ下駄)でコンクリート表面に上がれるようになるまで待ちます。散布のタイミングは作業者が上がった際に「網下駄」の痕がコンクリート表面にくっきりと付く程度となります。(コンクリートの状況に応じて材料散布前にアマ出しを行なうことがあります。)



3  
材料散布

アマ出し終了後、材料を散布します。  
・機械撒きは1回撒きが標準です。  
・手撒きは全量を2回に分けて行ないます。(1回目散布→すり込み→2回目散布→すり込み)  
※上記写真は、散布機械「シェイクマンII」を使用した例です。

### 下地の条件

十分に強度の出るコンクリート(モルタル)としてください。(コンクリートはセメント量300kg/m³以上、スランプ15cm以下を希望)  
下地コンクリートはできるだけ空気量の少ないコンクリートを打設してください。空気量が多いとふくれが発生しやすくなります。  
下地となるコンクリートにはヒビ割れ防止や浮き防止の対策をとってください。



4  
すり込み

材料が下地の水分を吸収して色が濃くなったら木ゴテや円盤装着機械ゴテですり込みます。



5  
金ゴテ押さえ

数時間後、金ゴテ押さえを行ないます。2~3時間後最終仕上げ押さえをしてください。

⚠️ 騎乗式機械ゴテで押さえすぎると、剥離の原因となります。ご使用は控えてください。(カラー・ハードFEMは除く)



6  
養生

夏場24時間、冬場48時間程度気乾養生した後、保湿養生することをおすすめします。養生期間は1~2週間以上。  
(気温20℃) ※養生費は別途見積りとなります。

●無機系床材のため、セメントの白華により多少の色ムラが発生します。養生終了後、乾燥させてからフロアブライトやニューキュアコート、カラーコートによる初期メンテナンスをおすすめします。

【雨に打たれた場合の床の補修方法】軽度の劣化の場合はリペアフロアで補修。劣化がひどい場合はフェロコンハードにて補修することで施工が可能です。

●水に濡れると微細な亀甲状のクラックが現れることがありますが、セメント硬化物特有の現象であり物性上の問題はありません。  
●散布機械は専用の「シェイクマン」シリーズをご使用ください。他の散布機械を使用した場合、所定の使用量が確保できない場合があります。